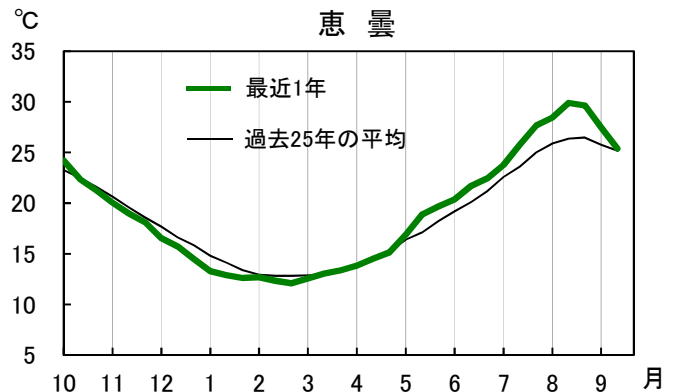
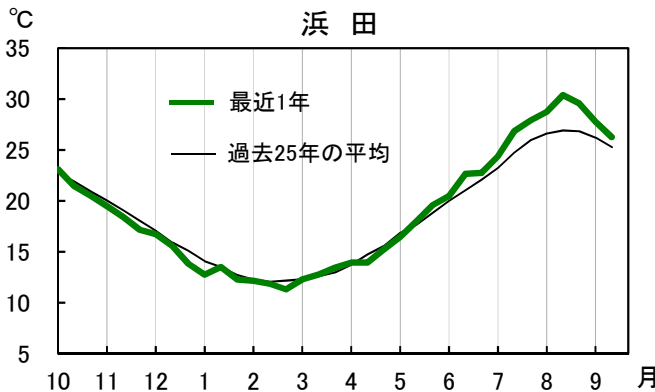




《8～9月の海況》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	29.6℃	+2.8℃	かなり高め
恵曇	29.3℃	+3.1℃	かなり高め

沿岸定地水温は、8月は浜田・恵曇地区とも上旬は「やや高め」でしたが、中・下旬は「かなり高め」で推移しました。9月に入り両地区とも上旬は「やや高め」でしたが、中旬になり浜田地区では「やや高め」が継続し、恵曇地区では「平年並み」に転じて経過しています。



《8月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。主体であるマアジ、サバ類はそれぞれ平年の4割、5割と大きく下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、サバ類、マイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は西郷で平年を上回り、浦郷で平年並みとなりました。また、近年漁獲の多かったブリは、平年を大きく下回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の87%）でスルメイカ混じりの（全体の13%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は244kgで平年並みでした。西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は39kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、アカムツ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は8.4トンで、前年の1.3倍でしたが、平年（過去10年平均）の8割の水揚げに留まりました。全体的に低調に推移し、ムシガレイは平年の8割、ケンサキイカは平年の7割の水揚げに留まりました。一方、アカムツ、キダイ、カワハギ類は平年の1.5～2.1倍の水揚げとなりました。

【パイかご漁業】

石見地区のパイかご漁業における総漁獲量は15トン、1隻1航海当たりの漁獲量は531kgで平年並みの水揚げとなりました。主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は13.7トン、1隻1航海当たりの漁獲量は474kgで平年並みの水揚げとなりました。銘柄「大」、「中」主体の水揚げとなっています。

【シイラまき網漁業】

石見地区のシイラまき網漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は1.8トンと平年の1.6倍となりました。出漁日数が平年の5割に留まったものの、1隻1航海当りの漁獲量が好調であったため、総漁獲量は平年並みとなりました。

【定置網漁業】

石見地区ではカンパチ、マグロ類、カワハギ類主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の1割と不振でしたが、カンパチ、マグロ類、カワハギ類が好調だったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではカンパチ、カワハギ類主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の3割、ブリが2割と落ち込んだため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではシイラ、カンパチ主体の漁況で、1統当りではケンサキイカが平年の5割、ブリが4割でしたが、シイラ、カンパチが好調だったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、ヒラマサ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年を下回りました。出雲地区ではケンサキイカ、マダイ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は27kgで平年を上回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、マダイ、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの総漁獲量は21kgで平年を下回りました。各地区でケンサキイカの漁獲割合が高くなっていますが、出雲・石見地区では平年並み、隠岐地区では平年を下回る漁況でした。

【平成 25 年 8 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	140トン	77%	47%	5.6トン	114%	55%	▲
	西郷	マアジ、サバ類、マイワシ	2,436トン	213%	95%	34.8トン	240%	121%	◎
	浦郷	マアジ、サバ類、マイワシ	1,598トン	327%	123%	27.5トン	299%	108%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	74トン	371%	102%	244kg	260%	136%	○
	西郷	ケンサキイカ	9トン	50%	40%	39kg	65%	49%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ、アカムツ	125トン	97%	70%	8.4トン	129%	84%	▲
バイかご	大田管内	エッチュウバイ	15トン	76%	96%	531kg	81%	94%	○
シイラまき	和江	シイラ	20トン	137%	54%	2.0トン	247%	207%	◎
定置網 (大型)	浜田	その他のマグロ類、カンパチ	24トン	204%	108%	1.2トン	224%	193%	◎
	美保関	カンパチ、マアジ、カワハギ類	31.8トン	75%	42%	355 kg	76%	40%	▲
	浦郷	シイラ	11トン	124%	86%	522 kg	153%	92%	○
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、ヒラマサ、マダイ	9トン	53%	40%	26kg	93%	70%	▲
	大社	ケンサキイカ、ヒラマサ、マアジ	6トン	113%	97%	16kg	122%	107%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ、マダイ、ヒラマサ	7トン	63%	53%	23kg	77%	70%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成25年9月25日

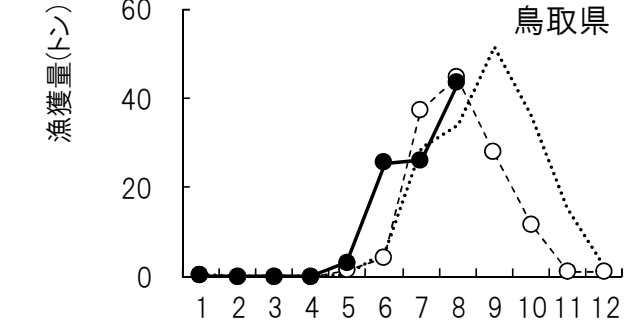
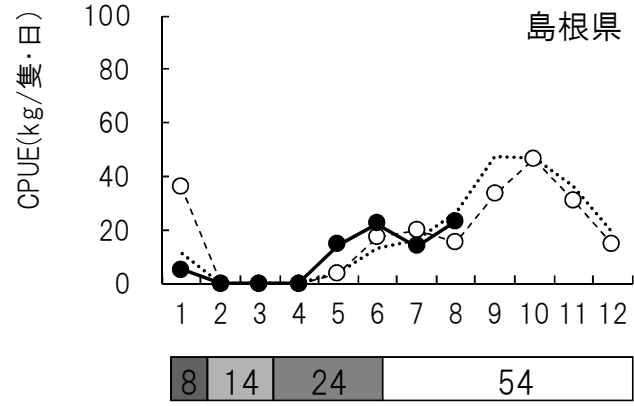
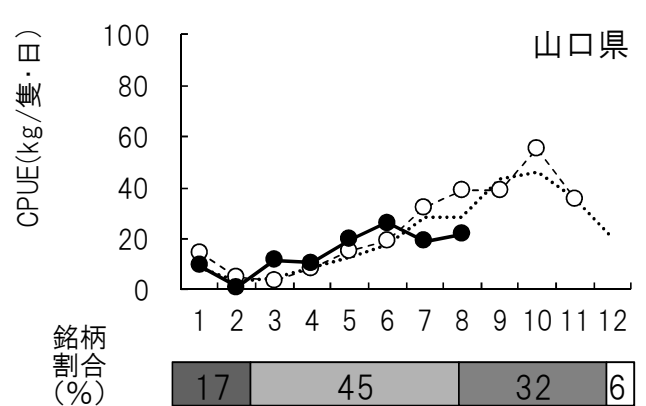
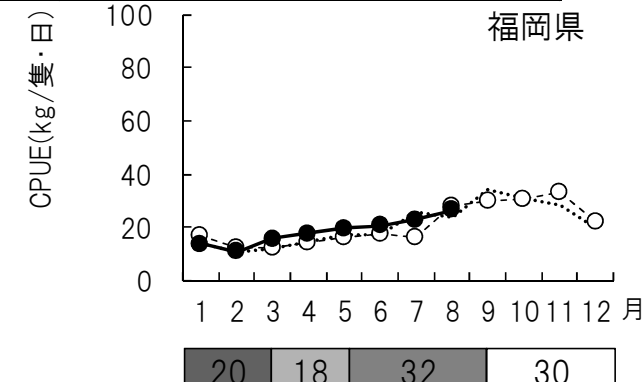
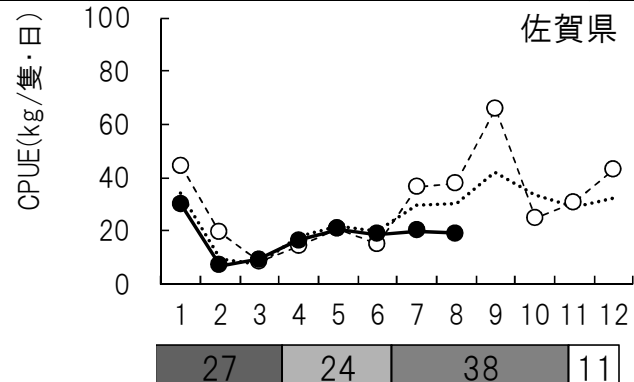
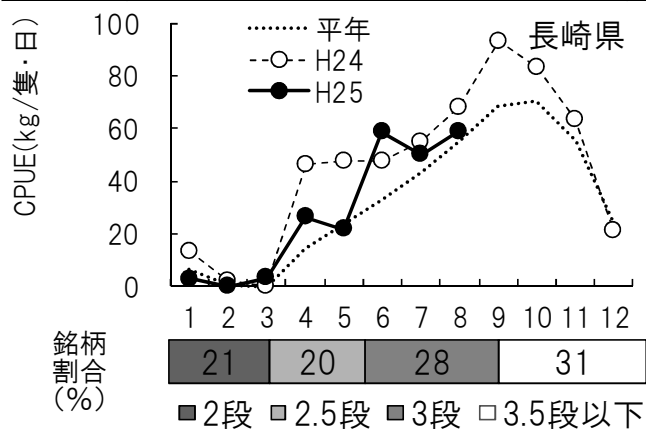
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：8月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県では好調ですが、佐賀県～山口県は低調のようです。島根県以西は平年並み以上です。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年、平年を上回りました(前年比173%、平年比129%)。	佐賀県	標本漁協の漁獲量は、前年・平年を大きく下回りました(前年比55%、平年比72%)。	福岡県	代表港の漁獲量は前年比88%、平年比93%で、前年・平年を下回りました。
山口県	代表港の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比62%、平年比56%)。	島根県	主要7港の水揚量は129トンで、前年を上回り、平年並みでした(前年比166%、平年比96%)。	鳥取県	鳥取県沿岸におけるケンサキイカの漁獲量(一部未集計のため暫定値)は、前年並みで、平年比約130%となりました。



※平年は過去5年(H20～H24)の平均値

Ⅱ：9月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖の底層水温は、15～20℃台でした。	佐賀県	底層水温は沿岸で19～24℃台、沖合で15～17℃台でした。	福岡県	沿岸域の水温は、底層で20～24℃台と平年並み～やや低め、沖合域の水温は、底層で16～20℃台と平年並み～やや高めとなっています。
山口県	底層水温は沖合の冷水域を除き、14～22℃を示し、ほぼ平年並みでした。	島根県	陸棚上の底層水温は、水深130～140mを境に、概ね灘側で「やや高め」、沖側で「かなり低め～はなはだ低め」でした。	鳥取県	水深100mの海域の底層水温は17℃前後でした。

底層の水温分布図
 大きい数字：水温
 小さい数字：水深

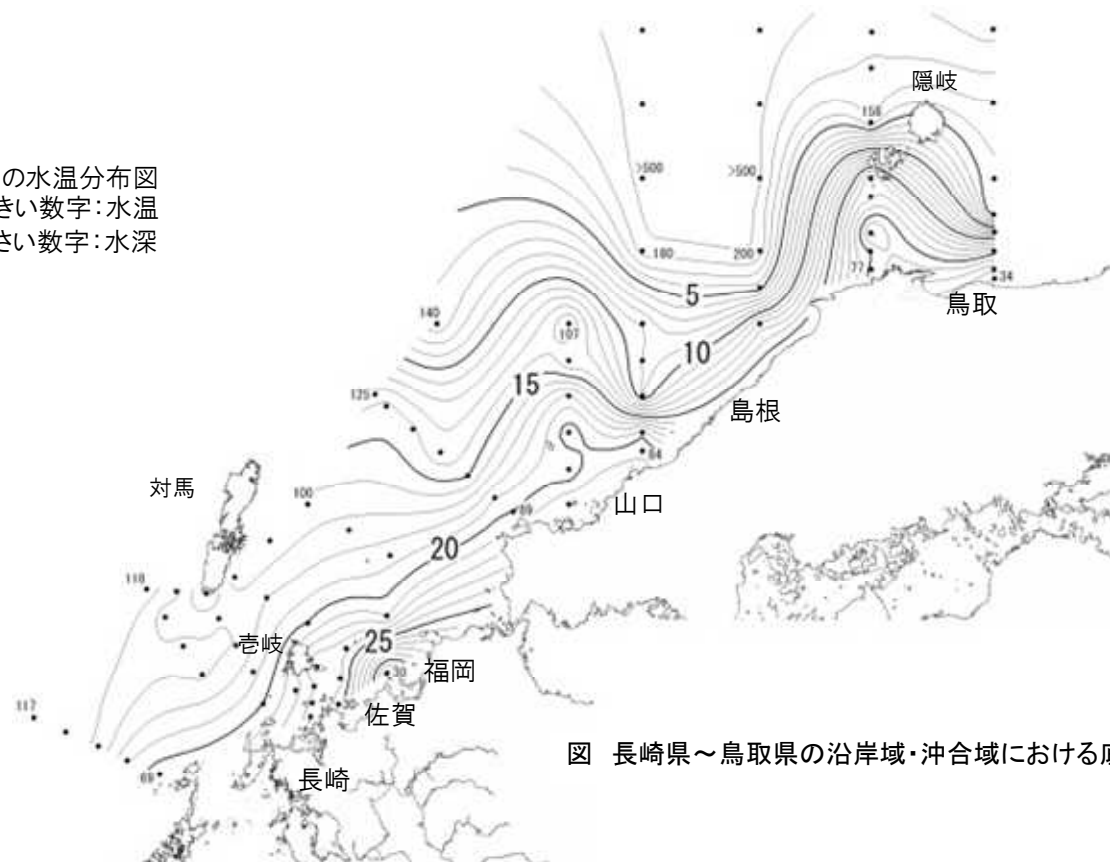


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図